

展勝地風土記

Vol.28

令和元年7月26日

展勝地開園100周年記念事業実行委員会
問い合わせ／北上市都市整備部都市計画課 ☎72-8279

展勝地開園100周年記念事業実行委員会、100周年に向けた取り組みとして、より多くの市民に展勝地を知っていただくため、展勝地に関するさまざまな情報を紹介しています。歴史的事実、地理的事実、自然環境のこと、そして、展勝地に深く関わった人々や展勝地を題材にした美術・文芸作品などについて紹介していきます。今回は10月25日に発行します。

『如意輪寺さんとお宝』

展勝地風土記編集委員会

国見山廃寺の仏教文化については、「展勝地風土記」第2号と第3号に詳しく掲載しましたが、現在、稲瀬町内門岡に「如意輪寺」という寺院があります。今では山門までの



いわやさん 岩谷山如意輪寺

参道や裏手の墓地周辺に美しく咲き誇る「彼岸花」で名を知られた寺院です。もちろん立地から言っても国



本尊と釈迦三尊坐像

見山仏教文化と深く関わりのあるお寺ですが、寺院として成立したのは江戸時代の元禄3（1732）年のことだったようです。それまでは、現在の寺院の向かい側の山腹に仏像を安置した「岩ガ入り」という洞窟があり、その下に「如意輪坊」という僧房があったといわれています。

この頃、仙台藩の重臣中目氏が上門岡柏原（奥州市江刺区稲瀬町柏

見山仏教文化と深く関わりのあるお寺ですが、寺院として成立したのは江戸時代の元禄3（1732）年のことだったようです。それまでは、現在の寺院の向かい側の山腹に仏像を安置した「岩ガ入り」という洞窟があり、その下に「如意輪坊」という僧房があったといわれています。

原）に居を移した際、如意輪坊を菩提寺として現在の地に移し、如意

木造如意輪観音坐像

北上市指定文化財
昭和五十三（一九七八）年五月二十三日 指定

如意輪観音は、如意宝珠と輪宝を持って人々の願いをかなえ、苦しみから救うとされる観音です。その多くは六本の腕を持ち、右手を頬にあてた思惟（深く考え）の像として表わされます。如意輪寺の本尊である如意輪観音坐像は、右膝を立て、穏やかな面もちで、右手を頬につけた思惟の姿をよく表しています。左手に載せられていたとみられる輪宝は、現在では失われています。

衣の表現は鎌倉期ですが、腕のふくらみなどは室町期で、塗料は江戸期のものと推定されます。作者は不明ですが、制作年代は室町期から江戸初期と考えられます。優れた作風であり、市の貴重な文化財です。



平成三十一（二〇一九）年三月

北上市教育委員会

境内入口にある説明版

輪寺としたといわれています。如意輪寺の山号は「岩谷山」。山号とは、同名の寺院名が多く区別するためにつけられるもので、由来や土地に関わったものが一般的であり、如意輪寺の「岩谷山」はその起りとなった洞窟に由来するものでしょう。

如意輪寺に安置されている仏像は貴重なもので、本尊の「如意輪観世音菩薩」は南北朝時代のものとして北上市の指定文化財となつていきます。本尊の手前に安置されている釈迦三尊坐像は「釈迦如来」「普賢菩薩」「文殊菩薩」で、



境内入口にある説明版

いずれも鎌倉初期に作られており、岩手県指定文化財となっております。作者は平安・鎌倉時代の仏師（仏像を作る人）・運慶とされていますが、流れをくむ慶派と呼ばれる仏師一派の作であることは間違いないようです。その慶派の仏師が招かれ、この地で作って奉安されたと考えられています。他にも近隣の寺院に納めておられ、中央で作ったものを運び込んだものとは違い、仏師と呼ばれるこれだけの仏像製作職人がこの地に滞在して作品を作るといふことは、ここ一帯に広がる山岳寺院はよほど大きな規模の寺院であり、国見山廃寺のスケールの大きさをうかがい知ることが出来ます。ちなみに国見山廃寺の「廃寺」とは、文字どおり廃れた寺院ということですが、「当時の中心をなした寺院名がはっきりしない寺院群」という考古学用語であると北上市立博物館学芸員からお聞きしました。極楽寺や如意輪寺（坊）、そのほか多くの寺院が栄えた山岳仏教の一大聖地である国見山廃寺は、中央に引けを取らない、誇るべき私たちの宝です。これら仏像は国指定級といわれていますが、傷みも激しく、同寺では修復したいと額の多寡に関わらず募財を行っています。

宝といえば、この如意輪寺には北上を代表する画家・藤原八弥氏の描いた作品が数多く残されています。八弥氏と同じく国見山の歴史と文化、雄大な自然に魅せられた、当時極楽寺に寓居していた沢藤幸治氏の妹・宮ソメ（紫光尼）さんや、しばらく無住だった如意輪寺の再興を図ろうと晋山した菊池英良住職と共に、この素晴らしい栄華を誇った国見山仏教文化について語り合った中で想像して描かれた「国見山桃源郷想図」や「国見山極楽寺文化今昔想図」などのほか、鬼剣舞や鹿踊などの民俗芸能、「国見山から観た西山・経塚山」など素晴らしい数多くの作品が寺院内に残されています。

令和3年に展勝地は開園100周年を迎えます。先日、記念事業実行委員会が設立されました。市民の皆さんもこの機会にぜひ、周辺にある



「国見山極楽寺文の今昔想図」藤原八弥氏画 如意輪寺所蔵

北上の宝を訪ねていただきたいと思います。

如意輪寺の許可を経て展勝地風土記編集委員会により寄稿しました。